

23年度夏の月例山行 槍ヶ岳

川田邦夫

今回は前日に、槍ヶ岳開山の祖である播隆上人の足跡を尋ねた後の槍ヶ岳登山であったため、播隆上人の開山に向けた労苦を偲びながらの登頂となった。

筆者は3度目の槍ヶ岳山行であったが、以前はいずれも飛騨側からで、上高地からの登山は初めてであった。

7月19日、沢渡の駐車場に車を置いて、バスにて上高地へ。夕刻に山岳研究所に入る。台風の接近が報道されていたためか、観光客はそれ程多くはなかった。



山研にて 内野管理人さんと歓談

7月20日6時、山研を昨日同行の石浦会員の見送りを受けて出発。朝からかなり強い雨で、雨具を着けての出発となるが風はそんなに強くなかった。7時20分明神神社に立ち寄って見学。澄み切った清流に沿って左岸を進むと、河原にケショウヤナギの巨木が見える風景が続く。

8時過ぎに徳沢小屋、徳沢園。8時20分、徳沢・横尾分岐。9時10分、横尾山荘前着。上高地から11キロ、槍ヶ岳まで11キロの中間点である。目の前に横尾大橋があり、ここから涸沢まで6キロとある。9時30分、横尾を出発。10分程進むと左側に屏風岩の岸壁が見える。この頃から雨も上がり、雨具の上着を脱ぐことができた。

10時20分、一の俣橋の付近でしばし休憩。ここより槍ヶ岳に沿って登ることになる。5分程で、二の俣橋。少しずつ流れも登山道の勾配も強くなった沢筋の左岸を進む。水量は多い。所々のよどみに、大きな岩魚の魚影がはっきりと見えた。11時10分頃、沢筋を少し離れると、そこには槍ヶ岳ロッジがあった。

休憩しながら昼食をとる。11時35分、ロッジを出発。少し細くなった登山道を30分余り進むと、旧槍ヶ岳ロッジのあった石垣跡と石畳のあるキャンプ場を通過する。次第に暑くなり、大きな枝沢を横切る所で、小休止して、これからの長い登りに備える。

12時45分、槍ヶ岳大曲りと言う所に出る。ここは右に道をとると、水俣乗越へ向かうことになる。槍ヶ岳はここから大きく左に曲がるとともに、斜面勾配も強くなっていく。しばらく進むと、登山道は雪渓の上を通ることになる。今年の高山地には一般に残雪が多く残る傾向があったが、この地域もそのように見えた。

15時15分、播隆窟に着く。坊主の岩屋とも言われる。1834年(天保5年)、播隆は4回目の登山で、53日間もこの岩屋に籠もったと書かれていた。大きな穴で、中に入って見た山田等の話では、奥に未だ残雪があったとのこと。かなり疲れてきたこともあり、25分の休憩だった。



播隆窟にて 上人の修業を想う

ここから先は岩のごろごろした急斜面をジグザグに登るようになる。

15時50分、槍と殺生の分岐を通過して10分余り登ると、再び殺生分岐があり、次第に頂上が近くなっていることがわかる。道は大きくジグザグしている。

17時00分、槍ヶ岳山荘着。台風の影響か、そんなに客は多くなかった。小屋の人は飛騨側からではなく、上高地からと聞いて、慰労の言葉をかけてくれた。そう言えば、この日我々の他に上高地からの登山者には会わなかったように思う。

先に連絡がしてあったので、主人はおられなかったが、夕食に槍ヶ岳ワイン1本がサービスされた。フルーティで評判が良く、その後お土産として帰りに買って帰る者が多かった。

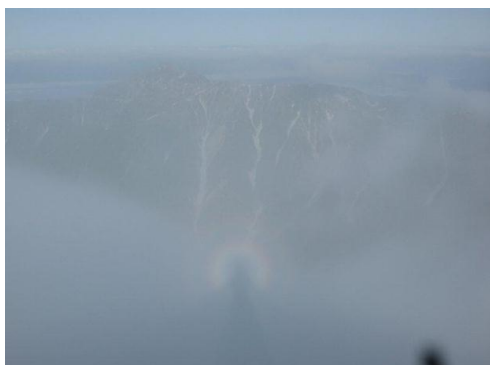
7月21日、4時20分頃、周囲は暗く、小雨と強い風があって視界不良。朝食前の登頂を止めようと相談して5時30分に朝食。食事後、次第に天気回復。登頂することにして荷物を預ける。6時少し前に山荘前を出発。

6時15分、山頂着。東側から晴れて陽光が出たため、穂高側の雲にくっきりとブロッケン現象の素晴らしい像が浮かび上がった。反対の太陽の周りにはハローが出ていた。

19日に訪れた法蔵寺の住職が言っていた山頂で見るブロッケン現象は播隆にも神々しく見えたであろうという話題が頭に浮かんできた。台風を押しての登頂であったが、運良く天気も我々に至福を与えてくれた。山頂の祠の前で、記念撮影をし、6時30分、山頂からの下山開始。6時50分に山荘前に戻った。



槍ヶ岳山頂にて記念撮影



槍ヶ岳方面に現れたブロッケン現象

7時30分、槍ヶ岳山荘を出発して下山開始。昨日の疲れたときの登りを考えると、とても快適である。8時15分には坊主岩屋に着き、小休憩。わずかな霧雨があったが、雨具を脱ぐ。9時45分、急坂を下ってきて足が疲れたので、大曲の谷筋に入って15分程の休憩をとる。

この頃には天気も良くなり、暑くなってきた。下からの登山者にたくさん会う。

10時55分、槍沢ロッジ着。中に入って昼食を注文して食べる。11時25分にロッジを出発。12時40分、横尾山荘。13時50分、徳沢園。この頃より足を痛めた人がいるため、所々で待ちながらゆっくり進む。

14時53分、先陣の本郷、川田は明神館前着。わずかに10分程遅れて後陣も到着。少し調子を落としていた河村さんも元気を回復して、15時50分、カップ橋に到着。16時20分、バス停着。全員元気に山行を終えた。

草花は早かったのか遅かったのかよくわからなかったが、槍沢ロッジの少し上辺りからゼンテイカの花を見ることが出来、雪溪の残る標高の高い所にはチングルマやハクサンイチゲも咲いていた。疲れもあったが、とても快適な達成感のある山行であった。

松本・安曇野の寺院訪問 金尾誠一

播隆上人が、槍ヶ岳を目指された前進基地が、松本・安曇野であった。支部の月例山行として、槍ヶ岳に向かうに際して、上人ゆかりの寺院をお尋ねした。槍ヶ岳追悼登山の準備でお忙しいところ、快く対応していただいたことに感謝します。また、今後いろいろと教えを願いたいと思います。

1. 女鳥羽山 道樹院 玄向寺 (浄土宗、松本市大村681)



本堂にて、説明される荻須住職



鎌を手にした播隆像

荻須真教住職(第40世住職)および副住職にお会いする。本堂で回向文、般若心経を唱和した後、用意していただいていた「法衣」、名号軸、上人像を拝見した。法衣は2ピースになっており、背割れがあり動きやすい工夫のしたものであるものだった。お話の内容は以下の通りであった。

○玄向寺について

室町時代に開創された、450年の歴史のある浄土宗のお寺で、本尊は阿弥陀如来三尊。5月連休から2週間程はボタンの見頃で、多くの人を訪れる。境内の播隆上人石像は先々代が、開山後100年に建立したもの。右手に鎌を持ったお姿は、道なき道を切り開いた証といえる。(住職からお話はなかったが、いただいたパンフレットを見ると、松本城主 水野侯菩提所、松本観音霊場 第三十一番札所、槍ヶ岳開山播隆上人修行霊場、松本市名勝 牡丹の庭園とあり由緒のあるお寺であった。)

○播隆上人との関わり

播隆上人が訪れた当時の住職立禅和上は、観經曼荼羅に精通したお方で、増上寺で3,000人に講義したといわれている傑物だった。

播隆上人もこの和上を慕いこの地を訪れ、槍ヶ岳開山を相談し、力にもなってもらった。逗留中、この寺の近くの女鳥羽の滝で修行された。

槍ヶ岳へは、中田又重を道案内にし、安曇野～小倉～槍ヶ岳のルートをとどられた。

上人の目的は、自身の山での修行と、里での念仏講による布教であり、信州、岐阜、愛知の信者を案内することであった。

○槍ヶ岳追慕登山について

追慕登山は、今年で18回目となる。開山の日の9月第一土曜に、槍ヶ岳山荘で播隆祭が行われており、それに合わせて登山を実施している。

播隆祭は今年で33回目となる。手甲脚絆姿で約50名が登山する。今年は、40名募集中、初参加は70才までとしている。2泊3日の行程で、単に登頂が目的でない。「追慕」であり、全員元気に上人の業績を思い出し味わいながらの登山で、頂上にはこだわらない。ただ、頂上からの眺望は、富士山、立山、白山まで眺められる。他の浄土宗僧侶にも呼び掛けているが、あまり参加はない。

(頂上を踏む)と(念仏修業)の違いがある。播隆上人は山を修行の場とされた。笠ヶ岳でブロックを迎えられ、槍ヶ岳を阿弥陀様と思われた。登山者は全員が数珠を持参する。出発地の松本駅前で念仏、播隆窟で清掃奉仕、殺生小屋で遭難者法要などを行いながら登るので、玄向寺の登山は時間がかかる。

追慕登山であり安全登山をに努めている。また、52名を引率中、雷が接近し、ビリビリと髪が逆立ちしたこともあったが、事なきを得た。18回登山し、5回ブロック現象に出会った。

○JR松本駅前の播隆像について

昭和61年に、松本駅前に播隆上人像が建立された。松本市の合併に際し、開山150年祭記念として、「学都 岳都 楽都」の提案をしたのが、祐泉寺住職、先代住職、現住職であった。

その提案が、銅像建立と播隆祭(夏ピークと秋紅葉の中間)の実施であった。銅像は、朝日村出身の彫刻家上條俊介先生が製作、モデルは先代萩須眞雄上人である。

2.周岳山 信楽院 宝蔵寺

(浄土宗 南安曇郡豊科町新田5716)

豊科町の町中のお寺で敷地総坪数が約六千坪。県の指定重要文化財に指定されている見事な山門を潜り、精悍な風貌の大沢法我住職にお会いした。本堂で木魚を叩きながら読経した後、お話を伺った。



説明される大沢法我住職

○案内人 山田又重について

播隆上人を槍ヶ岳に案内した中田又重の知名度向上が必要だ。三郷小倉の鷹庄屋の出で、山師として、鉱石、温泉、木、水の判断ができた。また、飛州新道開発にも携わった。

上人は、笠から槍へ向かうとき、松本側に回った。又重を伝って三郷に入り、上高地に5回入った。

松本駅前に「播隆像」ができたが、原型は双体像であった。北村正望門下の二人、上條俊介が「播隆」、小川大系が「又重」を作ったが、又重像は、行方不明であった。

檀家の方が、小川大系の仕事場に相撲取りのような像を見ていた。ブロックの中にしまっていたのを取り出し、友人に頼み、分解して鋳込みした。

播隆上人の偉業は、又重の存在なくしては実現できなかった。又重の銅像を通じて功績を伝えたい。

第27回全国支部懇談会
兼第28回東北・北海道地区集会に参加
(10月15日～16日) 本郷潤一

10月15日朝、昨夜来の雨が小降りとなった中、JR高岡駅より、はくたか3号に乗車。20分程遅れて越後湯沢駅に着くものの、上越・東北新幹線共に順調に乗り継ぎ、曇り空のくりこま高駅に到着。

送迎バスに分乗、1時間余りで会場(宿泊場所)となるハイルザーム栗駒へ。今回、募集人員120名のところ、170名余りとなった為、親睦会場は二ヶ所、宿泊は一部コテージ利用となった。

佐藤・栗原市長等の歓迎挨拶の後、風間東北大学大学院教授による「2008年岩手・宮城内陸地震、2011年東北太平洋沖地震」と題し記念講演、各々の概要・特徴等を詳しく講演。

アトラクションでは、地元栗原地区にある25・6団体のうちの1つである猿飛来神楽(サツビライカグラ)による「牛若丸出世一代記より牛若丸、秀衡対面場」が演じられた後、18:30から大広間とレストランに分かれ懇親会に移り、各支部からの地酒も振舞われ、和やかな一時が過ぎた。

翌16日、5:00起床、雨具着用、6:00バスにて、いわかがみ平へ、車中、紅葉を眺めるものの雨が止む気配がない。東栗駒コースを登り、中央コースを降りるのを主催者側判断で中央コースの往復に変更。

整備された登山道に雨水が流れる中、6:45スタート、時折、山頂あたりが見えるが依然として雨、8:10山頂到着、一等三角点の標石の上部面、右上にチップが埋め込まれ、常時GPSが測定可能となっている。

8:30下山開始、程なくして雨も上がり、徐々に下界が開けると同時に、紅葉目当ての登山客等が増え始める。9:45到着、満車状態の駐車場を後にし会場に戻った。



栗駒山山頂にて

なお、今回の山、栗駒山とは宮城県側からの山名で、秋田県側からでは大口岳、岩手県側からは須川山との呼び名を持つ山であった。

また、会場となったハイルザーム栗駒は13年前に建てられたが、2008年6月の震災で約2年間休館、今年3月の震災で再び3ヶ月の休館、今の7月に再開されたばかりとの話であった。13:57くりこま高原駅より帰途についた。

＊ ＊ 今回も雨に好かれた山行となった。 ＊ ＊

月例山行「寺地山」

10月23日(日)

参加者 木戸、谷村、本郷、金尾、有澤(記)

7:50 木戸自工を曇り空と同様、腰痛2名、頭痛1名、太りすぎ1名のはっきりしない体調で出発。41号線を走り、途中細入で病み上がり1名を乗せ、計5名の登山となる。車中の会話は、あくまで、ゆっくりゆっくり登ることで全員合意する。

山之村を過ぎ、飛越トンネルに向かうが、途中道路脇にある車は、富山ナンバーばかりで、きのこ狩りであろうか、毎度毎度の光景は、あまり感心できないものである。

8:50 飛越トンネルの手前、寺地山登山口に到着。神岡あたりから空もだいぶ明るくなり、紅葉もはっきりと望める状態になって、晴れ男として面目躍如である。

少し急な登りから始まるが、紅葉を眺めながらの登りは、カメラアングルの話で快調に進む。展望台との表示があったので、そこまでと登り続けるが、なかなか表示は現れず、尾根の途中、左手に有峰湖が木々と雲の間から姿を望むことができた。

「天の夕顔」のはかない恋……などと、思い浮かべせるような、絶景の眺めでありました。

一服しながら、またナナカマドを両脇に眺めながら打保ルートとの合流点に11:30到着。さすがに腹がへり昼飯とする。

空模様は徐々に悪くなり雨具を取り出す。道もだいぶぬかるんできた。今しがた付いたのか、カモシカが居ようである。

12:50 寺地山山頂に到着。展望を期待していたが樹木が多く、展望が望めず残念である。病人だらけでの登頂証拠写真を撮り早々に下山する。



寺地山山頂にて

雨が少し強くなり、さすがの私もカサを出し下る。途中イノシシであろう今出来たばかりの大きな穴”ヌタ場”に遭遇。まさに「やりやがったなー」という感じである。しかし、そのヌタ場もヌタ料理に話がはずむ。

14:00合流点までたどり着く。雨のせいか長い時間が感じられた。疲れた。一服後、更に歩を進め、ナナカマドの赤を目に焼き付け15:40ようやく登山口に到着。雨も上がり飛越トンネルと別れ富山へ向かう。

今回は久しぶりの登山で、良き先輩方との楽しい登山が出来、また登りたい気持ちが強くなりました。出来るだけ山行に参加するように心掛けます。

個人山行 槍ヶ岳3,180m(飛騨沢コース)
平成23年10月9日～10日(晴れ)(単独行)
山岸和子

三連休の天気予報晴れ＼(o^)/、7月の月例山行の槍ヶ岳は参加出来ず残念に思っていました。今、このチャンスと槍ヶ岳に行って来ました。

家を4時出発し新穂高温泉に5時40分着、無料駐車場は満車で鏡平第二駐車場へと「そんな所までじゃ、折り返し登山口まで時間かかり過ぎじゃない!!」と文句言っても無駄です。

第二駐車場へ登って行くと片側、路上駐車一杯、何とか駐車スペースに停めて登山準備し、歩き始める。登山口の新穂高温泉ロープウェイ駅で登山届し、6時50分出発です。

初めての槍ヶ岳に胸ときめかせながら白出沢出合まで、長い林道歩きです。他に男性1名、白出沢出合8時30分着、滝谷出合9時40分着、下りの単独行、何人かのグループ等に出会う。

槍平小屋に10時30分着、頂上から下って来た人達で賑わっている。10年前に左手の奥丸山に登ったのが懐かしく思い出された。

単独だと色々声掛けてもらい情報交換も出来、一人で来たのを驚く人もあり、休憩後槍ヶ岳山荘まで予定時間4時間余、キャンプ場通り抜け徐々に傾斜増す登山道に行く。

2,300mまで来ると急に足の動きが重くなる。休憩取り過ぎで筋肉冷えたようです。期待していた紅葉も葉が枯れて「目の祭り」出来ず残念です。

程なく辛そうにしている30代の男性が立ち止まっている。広告関係の勤務終えて、東京から夜行バスで来たとの事。未だ時間もありで一緒にゆっくり行きましようと同行しました。

何歩行っては立ち止まりで大変ですが、励まして話ながらペース配分していく。とても体も楽になった感謝されました。

千丈乗越12時30分着休憩。秋晴れの空、見上げる飛騨沢山頂に槍ヶ岳山荘が見える。飛騨沢は下る人、登る人で少し賑やかです。

ゆっくりゆっくりの足取りで、テント場通り15時30分頂上小屋に着きました。お疲れ様でした。



槍ヶ岳山頂

飛騨沢コース、槍ヶ岳コース、西鎌尾根、南岳～大喰岳からと流石にアルプス銀座と言われるに相応しく感動しました。小屋前は今時の山ガール、山ボーイで賑わっています。同行した男性は疲れきって小屋へ、私はリュック置き、カメラ片手に頂上に向いました。

頂上は狭いですが360度展望出来、富士山もはっきり見え、播隆上人の立たれた山頂に大満足です。風も冷たく写真撮ってもらい、早々に小屋にチェックイン。

部屋は単独の4人と2人連れ一組の女性6人だけで初対面ですが話に花が咲き楽しかったです。

翌朝、日の出拝もうと5時頃より頂上へ行く人、小屋前で待つ人でしたが、生憎厚い雲に阻まれて拝むことが出来ず残念でした。

6時30分小屋出発、同じ飛騨沢コースです。とても風冷たく指先が悴み、霜柱踏みしめながら下山です。風当りない中腹でやっと体が温かくなって来ました。今日の飛騨沢は昨日より人数多いです。

新穂高温泉ロープウェイ駅11時15分着き下山届し、車在る所へと。戻る道路歩きが山道よりきついかも！お天気に感謝です。

8月例会講演

とき 平成23年8月3日(水)

場所 富山ステーションフロント Cic 3階 とやま市民交流館 学習室5

講演者 道正 政信 会員

○「学校登山引率者研修について」 講演要旨

富山県で集団登山が行われたのは、明治45年、水橋小学校が初といわれる。

引率者講習が始まったのは、平成15年に、福岡小学校の男児死亡が契機となった。

平成23年は、県内197校のうち88校が集団登山を計画している。

講習会は、富山市が独自で行っており23校参加、県実施分では63校参加で、合計参加者は86名の予定。

平成15年から8年間、立山登山引率者講習会の講師を務めた。最初の3年間は、木戸岳連会長をサポート。

講習を続ける中で、先生方の実力にあった方法にし、遊び心も取り入れるようにした。また、形だけで身につかないものは止めた。(ロープワークなど)

三ノ越では、風速計を使った遊びの中から自然の厳しさを感じてもらった。

緊急対策では、大型ザックをブルーシートで代用する方法を紹介した。

また、参加した先生方にアンケートし、その声も参考に工夫している。

一ノ越のトイレ改修費用は1.6億円であるが、年間回収額は147万円という実態。

雄山には年5万人、一ノ越には年6万人が訪れているが、尾瀬と比べて意識が低い。

子供たちの持ち物として、ペットボトル、手袋、などの他にトイレチップもチェックしてもらう様、先生方へお願いしている。また、携帯トイレ(300円)も買ってもらっている。

7年目のこと、体調が悪いながらも、山頂を目指していた女の先生が、7合目で号泣された。8年前に滑落した子の横のクラスだったそうで、7回忌で胸が一杯になったとのことであった。

父兄の希望で、発達障害児が参加したことがあった。初めは感情だけを表現していた子が、「山小屋大きい、花きれい」と話すようになり、コミュニケーションがとれ感激した。

先生たちの悩みは、登山に対するプレッシャーで、6年の担任をしたくないと考えているのが現実。いろいろ考えて対策を練るようにすべきであるが、地域全体で学校登山に暖かい支援をしてほしい。

学校登山の目的は、山頂を目指すことだけではない。学校によっては工夫されているところもある。

[出席者] 木戸、中島、山田、近藤、川田、河村、佐藤、山岸、本郷、金尾(記)



実地研修



緊急対策

後日、道正会員から資料をいただきましたので、紹介します。

○集団登山の最重要課題

- ・校長先生の自らの強力なリーダーシップ
(担当者への過度の負担を避ける。学校全体の支援体制)
- ・先生の生徒一人ひとりに対する言葉だけでなく、確実な目配り
- ・ピークハント一辺倒でなく、立山一帯をそれぞれの舞台と考えそれぞれの自然を楽しむ計画を立案する。
- ・高山病、体調に配慮した余裕ある計画
- ・地域社会の協力
- ・デジタル時代に備え、パルスオキシメーターの備えがあると良い

レーニア山麓一周 ～全長195kmの踏査記～

長崎喜一

1993年、富山県山岳連盟が、登山具術の交流と環境をテーマに、米国のマザマス山岳会と友好関係を締結。

記念行事として、カスケード山脈に座する「聖なる山」16座への挑戦が始まり、2009年、最後に残った16番目のグレイシャピークを登頂し、全山踏査を達成する。日本人初で感激ひとしおでした。

記念として、マザマス山岳会から、名誉ある「16座登頂記録」の楯を授与され一生の思い出となる。

この祝賀会の席上、マザマス会長から、次の挑戦として1995年に登頂した北米一高いレーニア山麓を一周する200kmのワンダーランドトレールを2年掛けて踏破する計画が提案される。

雄大なレーニア山を全方位から眺める絶好のチャンスと共に、私の古稀記念にしようと思い当該計画を了承する。

2010年の早春、マザマス山岳会からワンダーランドトレール前半135kmのコース概念図と実施計画書を送付されてきた。

内容を見てビックリ！！7日間途中食料のデポ無し縦走行動。しかも、1日の行動距離は20～25km、さらに標高1,000mを基準に、登り下りが500m～700mを2回から3回もありハードで登山以上に過酷なコース。

早速、古稀記念登山を成功させるため、この難コースに耐えるべき体力強化を、5月から大地山登山道を利用して朝トレを開始。7月までは毎朝、松ヶ平(標高差350m)を往復。

7月からは、1週間に1度大地山に登って脚力を鍛える。苦しくて大変でした。

2010年、8月14日、レーニア山を一周する前半のワンダーランドトレイルへの挑戦に富山を一人で出発する。(当初、2人を予定していたが、渡米直前に一人が不参加)

16時間後、米国のポートランド空港に無事到着。その日の内に、7日間分の食料、テント、火器などの装備を調達、パッキングしたら22kgをオーバー、他に2リッターの水、先が思いやられる。

8月15日、早速、宿泊先のダグ宅から、ダグ隊長他2名のメンバーと自家用車で、350km離れたモンチレイクキャンプ場に出発。途中、レンジャステーションに立ち寄り、入山許可書をもらい、4時過ぎキャンプ場に到着。

テントを設営して食事をするが、日本語でメンバーとは会話が弾まず、ただ黙々と食べるのみ。キャンプ場は、多数の人で賑わい、湖では泳ぐ人やボートで遊びに興じていた。



岩屋小屋よりレーニア南方を望む

8月16日、前日作っておいたおにぎりで朝食した後、重い荷物を担いで、130kmの最初の一步を踏み出す。

水平道に続き一気に崖を縫って500mの下降、再び降った標高分を登り又降り登ることを繰り返していたが、途中体調が優れず持参した本物の「熊の胆」を飲んで、遅れながらも彼らについていき2日目のキャンプ場に到着。ばてる手前でした。

明日からついて行けるか不安ながら、話し相手もなく、テントの中で黒砂糖湯を飲み、元気の特効薬「まむし」を食べ、五目飯をたらふく詰め鋭気を養う。

8月17日 前日のようにハイペースではついていけないので、スローペースをリーダーに要請。

しかし、昨日に比較してコース道が整備されていたので、最初はスローで、休憩を頻繁に取りレーニアを眺めていたが、この調子ではキャンプ場到着が遅れるとのことで、通常のペースに戻り行進。重い荷物が肩に食い込み、痛さに我慢しながら体力の限界を超えて歩く。自分でも不思議なくらいがんばれたことは、事前の体力強化の成果だと自負する。

古稀記念登山と張り切って挑んだが、まさに地獄の一丁目と思った過酷なコース。エスケープコースが無く、引くに引かれず前進あるのみと観念して歩く。バテ気味で夕方6時、岩屋の避難小屋に到着。途中から地獄の一丁目と思った過酷なコースで、レーニアを眺める余裕が全く無かったし、ひたすら歩くのみ。こんな苦行、二度と体験したくないと思った。

岩屋ではテントの設営が省け大助かり。その分、眼面にそびえる夕日に照らされた黄金のレーニアをたっぷり堪能。苦しかったことをすっかり忘れさせてくれる。夕食を食べて、すぐシラフにもぐって、爆睡する。

8月18日 体調が回復し、元気を取り戻して高原地帯の登山道を登り下り中、高原帯に点在するコバルト色の湖に疲れを癒されひたすら歩く。

途中、氷河に覆われたアダムス山や15年前に登ったフッド山を遠望して当時を回想。

後半、コース最大の難所である斜度40度近くの氷河帯を150m余りトラバス。

疲れていて足がふらつき、相当ビビルも無事通過。今日23kmを踏破して明日に備える。森の精霊が宿る様な樹林帯でキャンプ。ようやくコースの半分を通過して安堵する。しかし、食糧は不足気味でいつも空腹気分。黒砂糖湯で空腹を紛らわす。

8月20日 最終日、干し肉と黒砂糖湯で腹を満たし、空元気を奮い立たせて朝6時に出発、食料は底をつき食べるものはほとんど無し。おかげで負荷重量が1/3程軽くなり、気力とがんばりでひたすら歩き通す。

途中からコースが車道と併走して、終点が近いことを感じ、浮き浮きしながら最後の力を振り絞ってゴールを目指す。しかし、コースが車道から離れたとたん、パラダイス川へ下降、川を横断中、雄大なレーニアを眺め、終点のナガラフォールを目指し400mの急坂をやっとの思いで登りきる。

やったー！！成功を喜び滝の上流でこぶしを突き上げる。駐車場で支えてくれたダグ隊長等と握手で成功を共に喜ぶ。

21日帰国。来年は今年の反省、課題を整理して、楽しいトレイル計画にしたい。

すぐに自家用車でダグ宅へ帰宅。晩、成功を祝して翌日まで祝賀会。苦しかった分、成功して感動ひとしお。来年、後半を踏破することを宣言。



西廻り湖畔群をめぐる最終コース

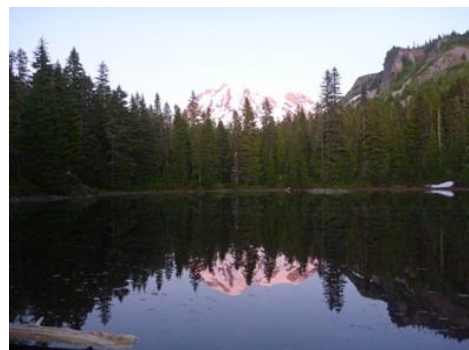
2011年、昨年度の残りレーニア山ワンダーランドトレイルの後半に挑戦。今年是一周踏破を目指し、メンバーは山岳連盟理事長開澤、河村が加わり3名。

8月14日、昨年と同一日に成田を出発。米国には同一日の10時過ぎ、ポートランド空港に到着、すぐに食料とテントなどを準備、パッキングし、当日はダグ宅に宿泊。

8月15日 マザマス山岳会側はダグ他2名と運転支援者1名、富山岳連3名の7人が、3台の自家用車に分乗し、帰りの自動車を手配して、今回出発地点のメードーレイクキャンプ場へ移動。テントを3人で設営し、たらふく食べ、明日からの山行に備える。

8月16日 早朝冷え込んで、氷点下4度。テント表面に霜がバリバリに張って撤収時に手が凍る。

今回はコースが短いので、食料も十分持参、共同装備も3分割出来たので、荷物の軽量化が図られ、20kg未満で出発。仲間との会話を楽しみながら、標高2,000m付近を基準に標高差500mから700mを上り下りする。刻々変化するレーニア山を遠望、仲間がいると不思議と疲れが少ない。夕方にはキャンプ地のモンチレイクに到着。



夕方のレーニア・ゴールドルートに映える

8月17日 今日標高差600m～700mを上り下りする。コースは大木の樹林帯が主でしたが、登山道が整備され、すごく歩きやすかった。少しバテながらも夕方には今日のキャンプ地、ゴールドデンレイクに到着。夕方当該湖に映えるレーニア山は、名前のごとく金色に輝く逆さレーニアで、その美しさに感動する。当地に来た人のみが見れる最高のロケーション、来て良かった！！

8月18日 テント場より一気に米松林を下り、荒れた川を渡渉して昼前に岩場のプガラップキャンプ地に到着。テント場正面にどでかい岩場が点在し、迫力満点。氷河とのコントラストは絶好のビューポイント。今日は当地でじっくり休養。大きな岩の上で昼寝する。至福の時をいただいた。



迫力に圧倒された岩と氷河の山麓

コース途中の氷河を渡り、途中雪を突き破って咲いているカタクリを見ながら、かつ、氷河のレーニアを眺めて、600m下降。川原に出て長大吊り橋を一人ずつ渡り、再び高原帯まで登る。

途中の湖はレーニアを映し最高のロケーション。感動の連続。再三の下降。歩行距離今回最高の25km、行動時間11時間、強行軍だったが、1日中いろんなレーニア山を眺める。

8月19日 最終日、開澤氏に頂いたクズ湯を腹一杯食べ、3人元気に出発。いきなり松林の急坂道を下降。昨日までの疲れで、慣れてはいたがヒザはガタつく。

パラダイス川を渡ったところで、最後の氷河と岩が織りなす雄大なレーニア山を眺望した後、自動車道に沿って最後の10kmを登る。午後1時、ついにナダラ滝に到着、昨年の東回りとの合流点に達し、念願のレーニア山麓195kmを達成する。成功できたことに充実感と感動で一杯でした。70歳の記念登山にもなり、人生の1ページになりました。

全行程を案内、支援してくれたマザマス山岳会のダグ、ジョー、ジェフ氏共に、今回同行してもらった河村、開澤両氏に感謝します。

その日のうちに、ダグ宅に帰宅し、マザマスメンバーと共にレーニア一周成功祝賀会。翌日、コロンビア川にてヨットを楽しみ、夏のバカンスを終える。

来年はマザマス山岳会との交流20周年を迎え、記念トレッキング(案)で楽人同士の絆をますます深めたいと思っています。



レーニア南西高原 開沢、河村、長崎

ご案内

月日	内容	場所など	備考
12/9 (金)	支部例会 (会員講演と懇親会)	18:00より講演会 富山ステーションフロント Cic3階 富山市民交流館 学習室1 講師:石浦 邦夫 会員 19:00頃より懇親会(忘年会) 富山エクセルホテル レストラン リコ・モンテ	懇親会会費 6,000円 申し込みは12/5(月)締切 事務局・金尾までお願いします。
平成24年 1/21(土)	雪山山行「大品山」	8:00立山国際ホテル駐車場集合	1/14申込締切
平成24年 1/21-22 (土、日)	富山支部・親睦会総会	18:00立山国際ホテルにて総会開催	親睦会会費 10,000円 申し込みは1/14(月)締切 事務局・金尾までお願いします。
平成24年 2/17(金)	第4回富山支部 「山岳講演会」	18:30より 富山県民会館701会議室 講演 飯田 肇 会員	参加は自由です。(無料) お知り合いもお誘いあわせの上、参加をお待ちしています。

(社)日本山岳会富山支部 会報第88号
発行 (社)日本山岳会富山支部支部長 山田信明
事務局 〒931-8451富山市銀嶺町10-16 金尾誠一
TEL 076-438-2716
Eメール s-kanao@pf.ctt.ne.jp